

EMC ControlCenter ソフトウェア・ファミリ

合理的かつ効果的にサービス・レベルの達成を目指す

特徴

- レポート作成およびプロビジョニングなどの定型的で労力を必要とする作業を自動化するため、ITスタッフが增加する情報を管理し、業務上の優先事項に専念することが可能
- 複雑なマルチベンダー環境でのエンド・ツー・エンドの管理を効率化
- 貴重なストレージ容量を回収し、ネットワーク・ストレージ環境のキャパシティ・プランニングを改善することにより、資本コストを削減
- 新しいアプリケーションの稼働をより短時間で開始することにより、プロビジョニング・プロセスにかかわる時間とエラーを削減
- EMCサービスのストレージ管理のエキスパートが提供する総合的なプランニング/設計/統合サービスを利用して、タイム・トゥ・バリューを短縮

EMC ControlCenter[®]ファミリにより、エラーが発生しやすい、時間のかかるタスクが自動化され、複雑な管理負担がユーザーからシステムに移行し、ITサービスを効率的に提供することができます。

SRM (ストレージ・リソース管理) およびデバイス管理のためのソフトウェアであるEMC ControlCenterファミリでは、情報を中心とする1つの一貫したアプローチを通じて、レポート作成、プランニング、プロビジョニングなどの一般的なタスクを自動化し、効率化できます。ControlCenterアプリケーションは、マルチベンダーの階層型ストレージ・インフラストラクチャの総合的な管理を提供し、情報ライフサイクル管理 (ILM) 戦略の実現を可能にします。

EMC ControlCenterでは、ネットワーク・ストレージ・インフラストラクチャ (SAN、NAS、VMware[®]などのホスト・ストレージ・リソース) 全体を「確認」すること、インフラストラクチャの稼働状況を「把握」すること、サービス・レベルの確保に必要な作業を「実行」すること、すべてを1台のコンソールから実行できます。その結果、より優れたパフォーマンス、生産性の向上、コストの削減が実現します。

今日の課題

今日のビジネスでは、より少ないリソースでより多くの成果を達成することが当然となっています。現状維持ではもはや十分ではありません。新しいアプリケーション、増大する複雑性、24時間無休のビジネスによるプレッシャーから、ITインフラストラクチャに対する要求はますます高まっています。これらの課題は、それぞれが独自の管理ツールを使用する多数のマルチベンダー・プラットフォームおよびソフトウェアにより、一層複雑化しています。課題は時に克服できないように感じられます。

SRM (ストレージ・リソース管理)には複数のフェーズがあります。まず、現在の資産を確認する必要があります。これがSRMレポート作成です。これは、今日の複雑なIT環境ではそれほど容易なことではありません。また、アプリケーションの新規導入や拡大、あるいは統合するインフラストラクチャの領域に対して、SRMプランニングを実行する必要もあります。実行済みのソリューションについては、最もコスト・パフォーマンスに優れた方法で管理するとともに、ビジネスの期待に応え、場合によってはそれ以上の成果を上げる必要があります。これがSRMプロビジョニングです。そして、これら全体を監視する必要があります。注意を要する事態が発生した場合は、ビジネス上合意しているサービス・レベルに影響が及ぶ前に、問題を切り分け、解決するという対応ができなければなりません。これがSRM監視です。最後に、すべてのコンポーネントを連携させ、投資から最大のパフォーマンスを引き出す必要があります。

ストレージ管理の各段階は、それぞれ次の段階につながっています。たとえば、どのような資産があるかすら知らずに効率的な管理を行うことはできません。すべての要素を認識する必要がありますが、現在利用できるのはその一部だけの可能性もあります。ITチームがベストを尽くされたとしても、涙ぐましい努力を続けている間、それ以外のビジネス・ニーズが満たされることはありません。

VMware ESX Server™環境の幅広いエンド・ツー・エンド管理が行われます(ホストおよびゲストのサポート)。ここには、サーバおよびコンポーネントの検出、プロビジョニング、複数のビューを使用したレポートの作成が含まれます。

EMC ControlCenterのサポート

オペレーティング・システム	HP-UX、HP Tru64、IBM AIX IBM z/OS、Linux Red Hat、Linux SUSE、Solaris、Windows 2000、Windows 2003、VMware ESX
バックアップ	Tivoli TSM、EMC NetWorker®、VERITAS NetBackup
データベース/ アプリケーション	Oracle、IBM DB2 MVS、DB2 UDB、MS SQL Server、Informix、Sybase、Exchange
SANデバイス	Brocade、McDATA向けBrocade Mモデル、Cisco、EMC Connectrix®
ストレージ	EMC Symmetrix®、EMC CLARiX®、EMC Centera®、HP StorageWorks、HP XPシリーズ、HITACHI 9500、9900シリーズおよび TagmaStore、IBM ESS、Sun StorEdge 9900シリーズ、JBOD、内部ストレージ管理システム、NASデバイス、EMC Celerra、Network Appliance
標準規格	SMI-S
Frameworks	BMC Patrol、CA Unicenter、HP OpenView、Micromuse、Tivoli NetView、Microsoft MOM、その他のSNMPベースのアプリケーション

SRM監視/レポート作成

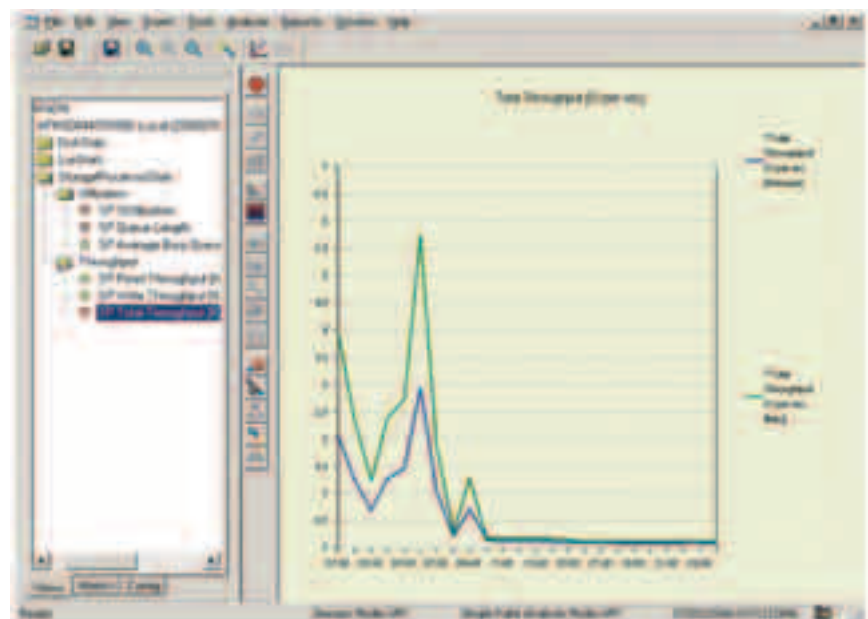
IT部門は、インフラストラクチャに関して、どのような資産があるのか、資産の活用が不十分ではないか、または資産をもっと有効活用できないか、資産のパフォーマンス状況はどうかといった、多くの事柄を認識する必要があります。どのような資産がありますか。資産の活用が不十分ではありませんか、または資産をさらに有効活用できませんか。資産のパフォーマンス状況はどうですか。

現時点での問題は、IT部門がこうした重要な情報を集めるには、手間のかかる手動でのレポート作成プロセスを経なければならない、しかもこの一連のプロセスには拡張性がないという点です。最も技術力に優れた企業でさえ、Excelのスプレッドシートを用いてレポートを作成しています。ストレージに関する最新の詳細データを有している企業がわずか10パーセントに過ぎないと考えられる主な要因のひとつも、ここにあります。既存のプロセスはエラーが生じやすく、そこで生成される情報は、レポートとしてまとめられる時点ですでに古いものとなっています。このため、IT部門は現行のストレージ・インフラストラクチャのストレージを効率的に活用することができず、将来に向けて効果的なキャパシティ・プランニングを行うことも難しくなっています。また、IT部門が、個々の利用者に対するストレージ割り当てや消費量を把握することも事実上不可能です。



EMC ControlCenter StorageScopeは、エンド・ツー・エンドで資産の履歴管理、使用率、レポート作成を効率化します。

これらの課題に対応するため、EMC ControlCenter SRM監視/レポート作成では、ストレージ・インフラストラクチャにどのような資産があるかを容易に確認できます。常に最新かつ正確な情報を、ユーザーが必要とする任意のレポート・フォーマットを使用して、オン・デマンドで柔軟に提供します。環境内のリソースは、部署ごと、地域ごと、アプリケーションごと、またはどのような構成にでもグループ化できるため、ビジネスの観点からストレージ・インフラストラクチャを管理できます。



EMC ControlCenter Performance Managerは、ストレージ・アレイ、スイッチ、ホスト、データベースからデータを収集し、それらを相互に関連づけ表示することにより、ITインフラストラクチャへの変更と追加がアプリケーションにおよぼす影響について迅速にフィードバックします。これにより、生産性を最大化できます。

EMC ControlCenter SRM監視/レポート作成ソリューションには、StorageScope™、StorageScope File Level Reporter、およびPerformance Managerの3つのモジュールが含まれています。

StorageScopeは、サーバからSANを介したストレージまでのエンド・ツー・エンドで、現在および過去のストレージ使用率に関する企業規模のレポートを作成し、資産の管理を効率化します。これにより、インフラストラクチャに存在するストレージ・リソースと、リソースの使用状況や使用者について確認できるため、ストレージの再割り当てをより効率的に行うとともに、ビジネス・ユニットに対して、使用したリソースについてのチャージバックを容易に行えるようになります。

StorageScopeが、アラーム発生レベルでストレージを消費している問題のあるホストを特定した場合、大容量のMPEGファイルなどの古いファイルまたはビジネス・クリティカルではないファイルにStorageScope File Level Reporterを展開し、ファイルをクリーンアップして、ビジネス・クリティカルなアプリケーションのために貴重なストレージ容量を再利用できます。これには、ファイルをより安価なストレージに移動したり、ローカルにzip形式でファイルを圧縮したり、ファイルをまとめて削除することなどが含まれます。

最新リリースのControlCenterを使用すると、StorageScopeとFile Level Reporterが単一のレポート作成インターフェースおよびサーバ、1セットのエージェント、単一のデータ・リポジトリと統合されます。さらに、この組み合わせには、14個の組み込みおよびカスタム・レポートなど複数のレポート作成方法が含まれており、概要レベルのデータ分析が提供されます。

Performance Managerでは、エンド・ツー・エンドのストレージ環境を示す一貫した1つのビューでパフォーマンスに関するレポートを作成し、パフォーマンス・ボトルネックの特定とパフォーマンス問題の迅速な解決を可能にします。

EMC ControlCenter SRM監視/レポート作成の主なメリット

- **資産使用率の向上:** 使用率の低い孤立したIT資産を特定することにより、追加購入の必要性が軽減または解消され、将来の調達のプロセッシングを的確に行うことができます。
- **サービス・レベルの達成:** 容量やパフォーマンスに基づいて、現在提供されているサービスをプロアクティブに管理および監視し、適切に課金することが可能となり、さらにこの情報を活用することがサービス・レベルを達成するためにも役立ちます。
- **管理を合理化:** レポート作成プロセスが自動化されることで、レポート作成という重要作業を完了させるために他の業務を犠牲にする必要がなくなります。最適なフォーマットで、重要な必要事項を相互に関連づけて要約するレポートを短時間で作成できるようになります。

SRMプランニング/プロビジョニング

資産を知ることは重要です。現在どのような資産があるかを認識していれば、将来の変更に対してよりよいプランを立てることができます。次の課題は、短期間の戦術的要件と長期間の戦略の両方を対象としたプランニング・プロセスにこれを適用することです。

特にSANの検証/設計プロセスについては、EMCではSAN Advisor™を用意しました。SAN Advisorは、既存または提案中のSAN構成を、EMC E-Lab™相互運用性マトリックスおよびSAN可用性のベスト・プラクティスに照合して、自動的に検証します。SAN Advisorにより、本番環境への導入前に変更のモデリングを行い、潜在的な問題を確認できます。こうすることによって、構成エラー、SANのダウンタイム、拡張性の制限などによるコストの発生を回避できます。

次の課題はプロビジョニングです。ここでの目的は、ビジネス・ニーズに迅速に対応するというシンプルなものです。しかしながら、問題はマルチベンダー・インフラストラクチャの複雑さにあります。デバイス(サーバ、SAN、ストレージ)はそれぞれ独自のツールを使用してストレージを構成するため、ストレージのプロビジョニングはITスタッフの負担となります。目的はストレージのプロビジョニング1つかもかもしれませんが、ITスタッフがその目的を達成するには、手動による作業を数多くこなさなければなりません。ストレージの割り当てのような日常的な業務を実行するために、さまざまな手順をすべて調整し、多様なツールを使用する必要があります。この手動による調整の結果、ストレージの割り当ては単なる日常業務ではなく、時間がかかりエラーの生じやすい作業となります。

EMCはプロビジョニングを効率化および自動化するソリューションを提供します。EMC ControlCenter SRMプロビジョニング製品であるSAN Manager™およびAutomated Resource Manager™は、お使いのアレイがEMC SymmetrixまたはCLARiXアレイであっても、HPアレイであっても、あるいはその双方でも、同じユーザー・インターフェースから使用できます。

SAN Managerは共通の方法を使用して、異機種混在のアレイおよびスイッチの監視と管理を行います。お客様は1回の操作で、SANゾーンとLUNマスキングをマルチベンダーのSANアレイおよびスイッチ全体で一貫して管理できます。

総合的なルールベースの自動化としては、Automated Resource ManagerとSAN Managerソフトウェアとが連携して、お客様のビジネス・ルールに基づいたエンド・ツー・エンドのストレージ・プロビジョニングを自動化します。たとえば、OLTPアプリケーション用にはストレージを優先的に供給するポリシーを設定する一方で、比較的重要度の低いサーバ用にはストレージ供給の優先度を低くした別のポリシーを設定する、といったことが可能です。アプリケーションに適切なポリシーを選択すると、条件に一致するストレージを検索し、ストレージ・アレイ、SAN、ホストに対して必要な構成タスクを自動的に実行するなどの残りの処理は、Automated Resource Managerが行います。

EMC ControlCenter SRM プラニング/プロビジョニングの主なメリット

- **SAN管理の一元化:** マルチベンダーSAN環境の正確なトポロジーを構築し、SANのパフォーマンスと稼働状態をプロアクティブに監視して、マルチベンダーSAN構成のタスクを一貫した方法で、容易に管理できます。
- **プロビジョニングの所要時間に関するサービス・レベルを遵守:** ストレージ・リソースのプロビジョニングを自動化することにより、エンド・ユーザーからストレージ追加の要請を受けた際にITスタッフが迅速に対応できます。
- **SANの検証/設計を迅速化:** 提案中のSAN構成を検証することにより、新規のストレージ・ネットワークの導入または既存のネットワークの変更をより短時間で実行できます。

デバイス管理

EMC ControlCenterのアプリケーション・ファミリには、Symmetrix Manager、Symmetrix Optimizer、CLARiXのデバイス管理も含まれます。これらのアプリケーションは、EMCアレイのパフォーマンスの監視、構成、最適化を行います。

EMCサービス: EMC ControlCenterのメリットを最大化

EMCでは、ControlCenterソリューションがお客様の環境で最適に動作し、お客様のビジネス目標に対応できるように、エキスパートがサービスを提供します。広範なトレーニングを積んだプロフェッショナル・サービス・スタッフとプロジェクト管理チームは、EMCに蓄積されたストレージ導入のベスト・プラクティスと実証された方法論を活用し、お客様のリソースに負担をかけずに、お客様が必要とするビジネス上の成果を早期に実現できます。

計画

EMCが提供するコンサルティング・サービスでは、お客様が既存のSRMのSLA (Service Level Agreement) を特定して最適化できるように、またビジネスにおいて高まる期待と需要以上のものを提供するためにはどのようなSLAを新たに適用すべきかを認識できるように支援します。監視、レポート作成、アラート生成、ストレージのプランニング/プロビジョニングの自動化といった領域において、SLAの達成に影響を与えるビジネスの推進要因を特定します。

EMCのSRMエキスパートが、お客様が現在お持ちのソフトウェア、スキル、リソースに関して最も優先すべきSRM優先度をご説明し、ビジネスの成長に合わせて将来のSRMにおけるニーズに取り組むためのロードマップをご提供します。たとえば、ControlCenterの稼働状況チェック評価では、お客様の既存のControlCenterインフラストラクチャのアーキテクチャ診断、パフォーマンス診断、ベスト・プラクティスの検討を総合的にを行い、推奨されるアーキテクチャの設計変更、ストレージ、構成、変更管理に関するベスト・プラクティスをご提案します。

構築

EMCのエキスパートが、お客様のITインフラストラクチャへのControlCenterソフトウェア製品の導入と統合を実施し、EMCのテクノロジーへの投資におけるビジネス上の成果をもたらします。たとえば、SRMカスタム・レポート/統合サービスは、財務上/運用上のメリットが最大となる領域に重点を置き、お客様固有のレポート作成要件に対応します。EMCは、お客様のビジネスおよび情報に関連するクリティカルな推進要因を評価したうえで、重要なビジネス・プロセスに沿った形で、ストレージ使用率の正確な管理を可能にするカスタマイズされたレポートをご提供します。

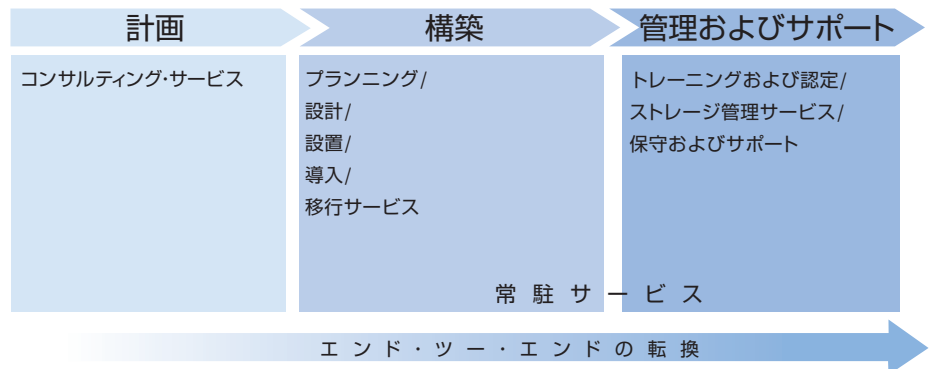
管理およびサポート

EMCは、お客様のビジネスやITインフラストラクチャの変化に合わせて、ControlCenterソリューションのパフォーマンス、使用率、効率、容量、拡張性の維持/拡大を支援します。EMCレジデンシー・サービスは、日常的な技術サポートからお客様に固有の運用上のアドバイスや改善事項、ストレージ・オペレーションや資産の総合的な管理まで、お客様が必要とするストレージ管理リソースと専門知識を提供します。SLAに基づくオンサイトの期間限定ソリューションであるストレージ管理サービスは、業界のベスト・プラクティス、フレームワーク、自動化を導入することで、お客様のストレージの効率を向上します。数々の賞に輝くEMCの保守およびサポート・サービスはお客様のビジネス継続性を確保し、最高レベルのお客様満足度を保証します。また、EMCの総合的なトレーニングおよび認定プログラムをご利用いただくことによって、お客様は情報インフラストラクチャを最大限に活用することができます。

ControlCenter向けEMC常駐サービス・サポート

テクニカル・サポートはEMCソフトウェア・ソリューションの主要なコンポーネントです。オンサイトまたはリモートのControlCenter向けEMC専任サポート・エンジニアが、お客様が今日の厳しい要件を満たし、さらに業務に重要なアプリケーションの継続性を維持するために役立つ専門知識、支援、およびサポートを提供します。これらの常駐サービス・オプションによってお客様のITスタッフが強化され、EMC ControlCenterソリューションに特化した高い技術スキル・レベルがお客様の環境にもたらされます。その他のメリットとして、お客様の環境を十分に把握できる点、また必要に応じてEMC製品エンジニアリング・スタッフに優先的に連絡が取れる点が挙げられます。

EMCは総合的なサービスの提供を通じて、お客様のEMC ControlCenterストレージ環境のシームレスな導入、カスタマイズ、管理を実現します。



ControlCenterファミリは、EMCの情報ライフサイクル管理戦略に欠かせない構成要素です。この戦略は、ビジネス中心、統合アプローチ、ポリシーベース、マルチベンダー対応、およびデータの価値との連携という特徴を備えた、プロアクティブな情報管理を目指すものです。

EMCは、完全な情報ライフサイクル管理を提供できる企業として、ライフサイクル全体にわたって、お客様が情報から最大限の価値を最低限のコストで得られるよう支援することを、ビジョンとして掲げています。

Gartnerは、2007年3月のストレージ・リソース管理とSAN管理ソフトウェアのMagic Quadrantにおいて、EMCをリーダーに置きました。

広範な業界サポート

EMCは、SMI-Sなどの業界標準の管理インターフェースをサポートしています。また、EMCのサービスは数多くのベンダーをサポートしており、業界で広く利用され、お客様の標準化の基準となっているテクノロジーとの統合を実現しています。

ControlCenterファミリでは、1つのビュー、1つの方法で、異機種混在のストレージ環境を管理します。このことにどれほどの価値があるでしょうか。ControlCenterでは、インフラストラクチャの複雑さを覆い隠す1つの統合ツールで標準化することにより、運用コストおよびトレーニングコストを削減します。使用するものは、基盤となっているテクノロジーに関係なく1つのツールだけです。おそらく、複数の要素がITインフラストラクチャに導入されたり、ITインフラストラクチャから削除されることになるでしょう。ControlCenterファミリの機敏性により、投資は保護されます。

仮想サーバ環境におけるストレージリソース管理

仮想化環境におけるストレージ管理の課題

現在のビジネス環境では、費用を抑えつつ効率を上げ、ビジネスの柔軟性を向上するために、サーバ仮想化ソフトウェアを導入しています。このメリットは充分にありますが、仮想サーバ環境の管理とそのストレージ・リソースの管理はそれぞれ異なる管理ツールを利用することになります。それは仮想化された環境をサポートするには非効率であり、ビジネスの柔軟性を低下させることとなります。お客様には、仮想環境と非仮想(物理)環境の両方を一元管理する能率的なツールが必要になります。

EMCは、VMware環境のためのSRM管理をエンドツーエンドで可能にします

EMC ControlCenter 6.0は、VMware ESX Server環境でのエンドツーエンドの管理を提供し、業界をリードするソリューションです。物理ESX Serverおよび仮想ゲストの検出、ストレージに対する物理/論理リレーションシップの表示、ストレージ管理/割り当てなど、EMC ControlCenterとVirtualCenterは相互に補完します。

EMC ControlCenter 6.0のVmware環境向け機能:

- ESX Serverから物理アレイ・デバイスまでのエンド・ツー・エンドのリレーションシップ情報
- VMware ESX 3.0.1サーバおよびコンポーネントの検出。これには、VMFS (仮想マシン・ファイル・システム)、ストレージ・デバイス、ファイバ・チャンネル・ホスト・バス・アダプタ、オペレーティング・システムのバージョンなどが含まれます。
- ストレージをVMware ESX Serverにプロビジョニング(マスキングとゾーニング)する機能。
- 個々のVMwareゲストの検出。これには、ゲスト名、オペレーティング・システムのバージョン、IPアドレスなどが含まれます。
- 各VMゲストにマッピングされた仮想ディスク・ファイルとrawストレージ・デバイスの容量をStorageScopeでレポートする機能。
- 大半のControlCenterビュー(トポロジー/パス詳細ビュー、空き領域ビューなど)におけるVMware ESX Serverのサポート。
- VMware ESXホストの容量および使用率に関する詳細をStorageScopeビューと空き領域ビューでキャプチャする機能。

ストレージ・リソース管理(SRM)のEMC ControlCenter contiuesは、40パーセント以上の市場シェア) IDC、2007年3月)

次のステップ

EMC ControlCenter製品ファミリーは緊密に統合されていますが、モジュラー形式で導入することができます。EMC ControlCenterストレージ管理ソリューションは、お客様のビジネスにさらなるメリットをもたらします。詳細については、EMC担当営業または認定EMCパートナーまでお問い合わせください。あるいは、当社のWebサイト(URL: <http://www.emc2.co.jp>)をご参照ください。

VMware ESXServer仮想環境におけるEMC ControlCenter6.0のメリット

VMware ESXServer環境のエンドツーエンドの管理: VMware ESXServerに接続されたストレージの管理をする場合、仮想化の効果をより向上させます。ユーザはESXServerの検出、容易なストレージ割り当て、ストレージデバイスの容量のレポートそして利用率と監視など、物理と論理のリレーションをエンド・ツー・エンドで見ることが可能になります。

プロパティ・ビュー: ContorlCenter6.0は、ESXServersとVMware環境の選択したオブジェクトに関連した一般的な属性が表示されます。選択したオブジェクトの構成をリスト形式で表示することもできます。

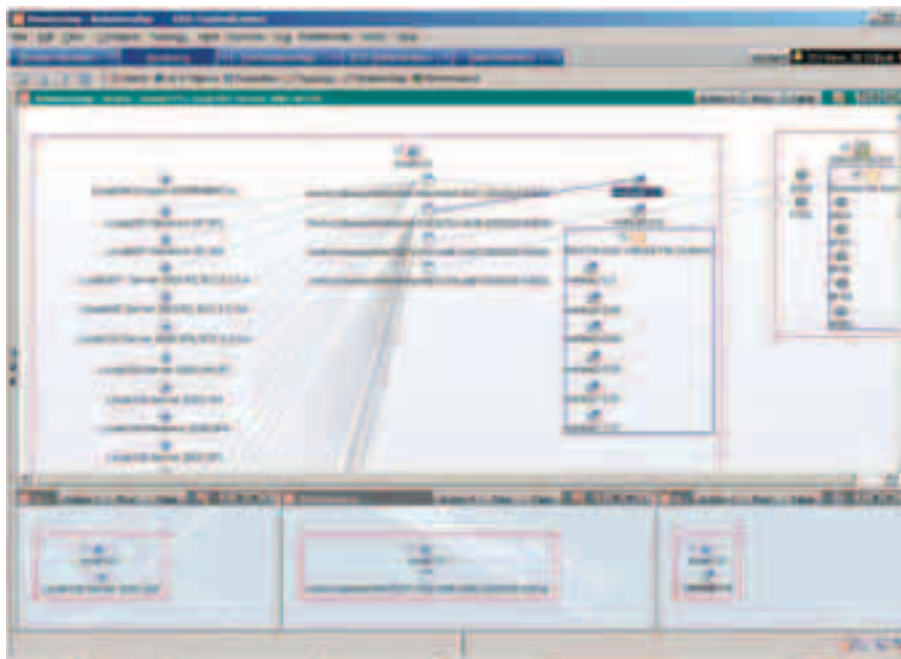
監視: ストレージの監視をしながらVMware ESX Serverの稼働状態を監視することが可能です。

リレーションシップ・ビュー: このビューでは、他のオペレーティング環境と同様にVMware ESXホストが完全にサポートされています。VMFSは、ホスト・ボリュームから基盤となるストレージ・アレイ・デバイスまでトレースできます。また、ゲストのオペレーティング・システムが基盤VMFSにマッピングされて表示されるので、ゲスト・システムから使用対象ストレージ・アレイ・リソースまでのリレーションシップを完全にトレースすることが可能です。

フリースペース・ビュー: 選択したVMwareサーバに関係づけたストレージの、未割り当て容量と割り当て済み容量を表示します。

利用率のレポート: プロパティ、ストレージの割り当て、バックエンド・アレイなど、VMware ESX Serverに関するあらゆる情報を取得できます。また、VMFSボリューム、仮想マシンにマッピングされたrawデバイス、および利用率に関する詳細ビューも用意されています。

SANのトポロジー・ビュー: ESXServer接続は、トポロジービューと同様にバスの詳細なビューをサポートします。ユーザは、ESXホスト、HBAとポート(SANスイッチ・ポートを通して、ストレージ・アレイ・ダイレクタ、ポートそしてボリューム)から全体のSANトポロジー・バスの構成と状況を見ることが出来ます。



EMC ControlCenter6.0は、お客様のVMware ESXホストとゲスト・サーバ環境におけるストレージの検出、割り当て、そしてレポートにおける「ベストオブブリード」を提供します。



EMCジャパン株式会社
東京都新宿区西新宿2-1-1
新宿三井ビル(私書箱323号)
〒163-0466

お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-588543
受付時間:月~金 9:00~17:30 (祝日を除く)
URL: <http://www.emc2.co.jp>

EMC、EMC、EMC ControlCenter、Celerra、Centera、Connectrix、CLARiX、NetWorker、Symmetrix、および where information livesは、EMC Corporationの登録商標です。Automated Resource Manager、E-Lab、SAN Advisor、SAN Manager、および StorageScopeは、EMC Corporationの商標です。VMware はVMware, Inc.の登録商標です。他のすべての名称ならびに製品についての商標は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

© Copyright 2003, 2007 EMC Corporation.
不許複製

データシート
H1082.4-J 09/07



本カタログは環境保護のため100%再生紙および大豆インキを使用しています。